

第6回 評価検討ワーキンググループ

【資料集】

資料1

資料2

資料集 目次

【資料1】第5回評価検討ワーキンググループのまとめ	・・・	1
【資料2】西宮市次世代育成支援行動計画（後期計画）の評価	・・・	3

議事（1）第5回評価検討ワーキンググループのまとめ

1. 次世代育成支援行動計画（後期計画）について

次世代育成支援行動計画（後期計画）の概要について事務局から説明を受けた。

2. 評価方法について

今年度の評価は、事業計画との一体化の審議に向けて、当初の計画期間（平成 22 年度～平成 26 年度）である5か年度の取り組みについて、基本目標単位で意見を述べ、次世代計画全体の評価・検証を行うこととなった。

また、今後重点的に取り組むべき課題・事業等であるかを整理していくため、以下の視点により評価を行うことで共通認識を図った。

- ①引き続き、重点的に取り組むべき課題である。【拡充】
- ②課題内容に変化があり、取り組み方を改めて検討するべき。【見直し】
- ③取り組みの結果、概ね課題解決に至っている。【継続】
- ④新たな課題が発生している。【新規】

3. 基本目標 1～3の評価について

<基本目標 1 >

- 1 家事や育児の援助を受けるサービスの利用要件について、祖父母等が他府県に居住している場合でなければ利用できないなど、要件を定めているものについては、要件緩和を検討する必要がある。
- 2 各事業における“人材不足”の解消のため、類似事業間で連携・調整し、人材不足を解消する仕組みを検討する必要がある。また、インターネットなどで情報収集できない人に対して相談を受け、コーディネートするような仕組みも強化する必要がある。
- 3 利用者支援事業「子育てコンシェルジュ」の担い手について、地域の細かい情報を提供する観点から、周辺のこと分かる、もしくは地域に根ざした活動をされている人を採用するべきである。
- 4 子育てひろばについて、甲子園口周辺など、空白地域を中心に拡充する必要がある。
できれば、中学校区に1つは整備し、それぞれに子育てコンシェルジュを配置する必要がある。
- 5 子育てひろばが主に0歳～2歳を対象としているため、2年保育（公立幼など）を希望する場合は3歳の行き場に困まっている。年齢によって分かれて育つ場ではなく、一緒に育ち合えるような居場所づくりが必要である。
- 6 小学生の居場所として、夏休み期間など子供が集える場づくりを検討する必要がある。
- 7 この5か年で様々な事業を実施してきたが、平成 21 年度と平成 25 年度に行ったアンケート結果では、「子育てに関して不安や負担感等を感じている」割合はあまり減っていない。一方、「子育て支援で力を入れてほしいこと」では、一時預かりの充実など、依然としてニーズの高い事業があることから、アンケートの結果を踏まえて、課題を整理する必要がある。

- 8 子育て家庭が出向くという形態から「訪問型」、「個別型」のサービス提供が課題として挙げられていたが、健やか赤ちゃん訪問事業などでほぼ 100%の面談率により、支援制度の充実は図られてきたのではないかと。
- 9 子育てについての相談体制の充実では、アンケート結果で「子育てで困った時に相談できる相手がいる市民の割合」が増加していることから、相談支援施策が功を奏していると言えるのではないかと。
- 10 子育てひろばは、身近な場所で同じ年代の子供を持つ保護者と交流する中で、子育てを楽しんでいる体験ができる場所であるため、今後もっと力を入れ、身近な場所にあるということを拡充の目標にして実施する必要がある。

<基本目標 2>

- 1 乳児相談の実施場所、対象年齢（現行は生後 13 か月まで）の拡充、離乳食講座の対象（現行は第 1 子のみ）を拡充すべきである。また移動児童館を活用して、保健師や栄養士が同行し、相談を受ける機会の提供や身長、体重を測定する機会の提供など、連携し実施することで事業の拡充につながるのではないかと。
- 2 乳幼児健診と保育所や幼稚園の連携を強化する必要がある。
- 3 食育の推進について、計画に盛り込むか、もしくは他の計画に関連付けるなどして地産地消の考え方を明記するべきである。また、みんなが“見える”形で実施する必要がある。
- 4 離乳食講座について、一緒に食べる体験型の講座は非常に人気があり、保健福祉センターだけでなく、保育所や子育てひろばなど色々な場所で取り組みを進める必要がある。
- 5 「性教育指導の指針作成」や「性に関する相談医制度」について、望まない妊娠が子供の虐待などにつながっていることから、取り組みを進める必要がある。
- 6 喫煙、薬物、アルコールについての正しい教育を充実する必要がある。

<基本目標 3>

- 1 保育所の需要は、今後どんどん高まっていくため、重点課題として取り組む必要がある。
また、0～2歳児の過ごす場として、庭があって、きっちりとした給食が食べられるという認可保育所と同じような内容の保育所となるように充実させる必要がある。
- 2 保育の質が良ければ良いほど子供たちにとってはいいことである。西宮市としての財政的な限界もあるものの、質の向上のためにお金を使ってしまうことが非常に大切なことになる。
- 3 保育の質について、昔に比べると、保育士の仕事内容がすごく増えてきている中で、保育士の待遇も含めて検討する必要がある。保育士が生き生きと続けていけるような待遇を検討する必要がある。

議事（2）西宮市次世代育成支援行動計画（後期計画）の評価

【基本目標 4 教育環境の充実と健全育成のまちづくり】

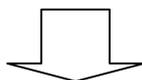
（概 要）

人間関係の希薄化や規範意識が低下する中で、次代を担う子どもたちが、いのちを大切に、人権を尊重する意識を高め、確かな学びを身につけるよう、学校教育と社会教育の連携を強化し、教育環境の充実に努める。また、家庭や地域の子育て力を高めるため、幅広い情報と学習機会の提供に努める。

第 1 章 次代の親の育成

計画で課題として挙げられているもの

- より多くの中学生、高校生などが乳幼児とふれあう体験ができるよう、学校と保育所、幼稚園、児童館など関係機関との連携が必要。



課題解決に向けた取り組み

1. 次代の親の育成

1. 次代の親の育成【関連事業：参考資料集 p. 32】

中学生から大学生を対象として、子育て総合センターに集う親子と交流できる機会を設けたほか、中学校、高校と保育所が連携し、中高生が保育所で育児体験を行う機会を設けるなどして、異年齢の交流、乳幼児への接し方、生命の尊さなどを学び、将来の子育て力を高める機会を提供した。

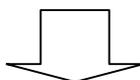
【図表 1 児童館における異年齢交流事業、トライやる・ウィーク推進事業、ふれあい体験事業、ふれあい育児体験の実績】

	H21	H26
中高生・大学生による乳幼児育児体験等の参加数	1,046 人	2,101 人

第2章 子どもの生きる力の育成

計画で課題として挙げられているもの

- 学力向上に向け「学校サポートにしのみや」の活動の充実。
- 「西宮市人権教育・啓発に関する基本計画（平成 21 年 4 月）」に基づき、一人ひとりの自尊感情を育て、子ども同士の豊かなつながりを広げていくことが必要。
また、生涯にわたって主体的に健康で安全な生活を実践する力を養うために、学校保健委員会の活性化が必要。
- 学校評価結果の周知。また、学校、家庭、地域と連携し「共に育てる」という意識啓発。
- 教室不足の解消、老朽化対策、施設のバリアフリー化対策。
- 幼稚園における保護者負担、公費投入などの公私間格差の解消と幼稚園教育の振興を図ることが必要。



課題解決 に向けた 取り組み

1. 確かな学力の向上
2. 豊かな心と健やかな体の育成
3. 信頼される学校づくり
4. 教育環境の整備
5. 幼児教育の充実
6. 特別支援教育の充実

1. 確かな学力の向上【関連事業：参考資料集 p. 33～34】

「学校サポートにしのみや」がより効果的に機能し、学力向上につながるよう支援体制の充実を図った。
また、学校図書館が持つ機能の活用、ICT 機器・EduNet などの活用、学びの指導員の配置などにより、子供が主体的・協働的に学ぶ学習やそのための指導方法等の充実に努め、確かな学力の向上を図る取り組みを進めた。

【図表 2 西宮市まちづくり評価アンケート結果より抜粋】

※期待度：市政に今後期待することとして、「とても期待する」6点から「まったく期待しない」1点までの6点評価の平均値
満足度：市政に対する満足度として、「とても満足している」6点から「まったく満足していない」1点までの6点評価の平均値
ギャップ：期待度と満足度の差

		H21	H26
学校教育の充実	期待度①	4.96	4.99
	満足度②	3.48	3.55
	ギャップ (①-②)	1.48	1.44

2. 豊かな心と健やかな体の育成【関連事業：参考資料集 p. 35～36】

豊かな心をはぐくむため、道徳教育、人権教育、キャリア教育などを推進し、子供の発達段階に応じて、より充実した学習・教育活動の取り組みを進めた。

また、体育指導、健康教育などの推進により、主体的に健康で安全な生活を実現する力を身に付けるための取り組みを進めた。

3. 信頼される学校づくり【関連事業：参考資料集 p. 36～37】

各学校で学校評価の実施・結果の公表を行うほか、学校・家庭・地域で構成する教育連携協議会において課題共有し、「地域の子供は地域で育てる」という地域が参画する学校づくりを進めてきた。

また、若手層の教師力の向上、ミドルリーダーの育成など研修制度の再構築・充実を図った。

4. 教育環境の整備【関連事業：参考資料集 p. 37～38】

児童急増に伴う学校の教室不足に対して、仮設校舎の設置や校舎等の増改築事業を進めたほか、学校施設の耐震化として、建替えや耐震補強工事を進めた。さらに、平成26年度には、全ての中学校の普通教室に空調設備を整備したほか、エレベーターの設置等による施設のバリアフリー化を進めるなど教育環境の整備を図った。

【図表3 教育環境の整備に関する実績】

	H21	H26
学校施設の耐震化率 ^(※1)	59.7%	99.7%
学校へのエレベーター設置率	54.6%	81.6%
小・中学校の普通教室への空調設備の設置率 ^(※2)	30.2%	63.3%

※1：学校施設の耐震化は、平成27年度中に完了する建替工事により、100%となる。

※2：平成28年度中には、全ての小学校の普通教室への空調設備の設置が完了する予定。

5. 幼児教育の充実【関連事業：参考資料集 p. 38～39】

幼児期における教育・保育と小学校教育が連続性、一貫性を持ってつながり、互いを理解し、見通しをもった教育・保育を推進するため、西宮市幼稚園・保育所・小学校連携推進事業「つながり」において、啓発リーフレット、カリキュラムの作成などを行った。

また、幼児期における教育・保育のあり方を検討する「西宮市幼児期の教育・保育審議会」を設置し、「幼稚園と保育所、公立と私立、家庭と地域における子育ての役割について」などの6つの諮問項目について、審議を進め今後のあり方についての答申を得た。

6. 特別支援教育の充実【関連事業：参考資料集 p. 39】

障害のある子供一人ひとりの教育的ニーズを把握し、適切に支援していくため、特別支援教育コーディネーター、特別支援教育支援員を配置し、校内体制の充実を図った。また、学校園の要請に応じて教員等への相談や発達障害等のある子供への望ましい教育的対応について、専門的意見を示す「西宮専門家チーム」による教育サポートを行った。

第3章 家庭や地域の教育力の向上

計画で課題として挙げられているもの

- 各種講座等の参加者の増加や内容の充実。
- 地域の各団体の活動経費の確保や団体運営を担う後継者・地域の協力者の不足などの基盤の強化。



課題解決に向けた取り組み

1. 家庭教育への支援の充実
2. 地域社会における教育力の向上

1. 家庭教育への支援の充実【関連事業：参考資料集 p. 40】

学校・家庭・地域・行政が一体となって家庭の教育力の向上を支援できるよう、各種関係団体や学識経験者からなる西宮市家庭教育振興市民会議において意見交換を行い、家庭教育フォーラムや家庭教育出張講座等の開催に取り組んだ。

【図表4 家庭教育出張講座の実績】

		H22	H26
家庭教育出張講座	参加者数	508人	1,040人
	講座参加者の満足度	97.8%	95.8%

2. 地域社会における教育力の向上【関連事業：参考資料集 p. 40～41】

西宮市PTA協議会と連携して研修会や講演会を開催し、それぞれの学校園のPTAに対する家庭教育の啓発や学習機会の提供を行った。また、公民館においても各地域が抱える家庭、家族、青少年に関わる講座を実施した。

基本目標5 子育て家庭にやさしいまちづくり

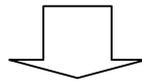
(概要)

子どもや妊産婦、乳幼児連れの子育て家庭をはじめ、だれもが安全・安心・快適に暮らせるよう、ユニバーサルデザインの考え方に基づいた住まい・まちづくりの誘導、施設整備を進めるとともに、道路や公共交通機関のバリアフリー化などの推進に取り組む。

第1章 良好な住宅・住環境の整備

計画で課題として挙げられているもの

- ユニバーサルデザインの考え方に基づく住まい・まちづくりの推進と、住まい・まちづくりのための情報提供や相談体制の整備。
- 良質なファミリー向け賃貸住宅等の供給を促進するなどの取り組みの推進。



課題解決に向けた取り組み

1. 良好な住宅・住環境の整備

1. 良好な住宅・住環境の整備【関連事業：参考資料集 p. 41～42】

安心して暮らせる安全な住まい・まちづくりに向け、住情報の総合窓口の設置や宮っ子のいえアドバイザー派遣制度により、住宅に関する情報提供や出前講座の実施などを行った。

また、夏休みエコいえ作り体験ワークショップを開催し、自然と共生した住まいについて親子で学ぶ機会の提供などを行った。

【図表5 西宮市まちづくり評価アンケート結果より抜粋】

※期待度：市政に今後期待することとして、「とても期待する」6点から「まったく期待しない」1点までの6点評価の平均値

満足度：市政に対する満足度として、「とても満足している」6点から「まったく満足していない」1点までの6点評価の平均値

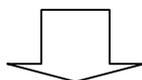
ギャップ：期待度と満足度の差

		H21	H26
良好な住宅・住環境の整備	期待度①	4.92	5.04
	満足度②	3.92	4.07
	ギャップ(①-②)	1.00	0.97

第2章 安全で安心な移動空間の確保

計画で課題として挙げられているもの

- 必要性、緊急性を勘案しつつ道路環境等の整備を図る。
- 「兵庫県福祉のまちづくり条例」及び「西宮市福祉のまちづくり要綱」の整備基準を満たしていない既存施設については努力義務の履行を促す。



課題解決に向けた取り組み

1. 安全な道路交通環境の整備
2. 安心して外出できる環境の整備

1. 安全な道路交通環境の整備【関連事業：参考資料集 p. 4 2～4 3】

都市計画道路など新たな道路や既存の道路において、妊産婦や乳幼児連れなどが安心して通行できるよう、バリアフリーに配慮した歩道整備を推進し、快適な道路空間の整備に取り組んだ。

【図表6 歩道等の段差解消（バリアフリー化）実績】

	H21	H26
既設交差点の歩道段差解消・点字ブロック等の整備率	65.9%	68.9%

2. 安心して外出できる環境の整備【関連事業：参考資料集 p. 4 3】

すべての人にとって安全で快適な日常生活空間の拡大を図り、だれもが自由に活動できるまちづくりを進めるため、「兵庫県福祉のまちづくり条例」及び「西宮市福祉のまちづくり要綱」に基づいた施設整備を進めた。また、鉄道事業者と連携し、鉄道駅舎のバリアフリー化を推進した。

【図表7 公共交通機関のバリアフリー化】

	H21	H26
市内鉄道駅舎（平地駅以外）のエレベーター設置箇所数	13 か所／17 か所	16 か所／17 か所
ノンステップバス導入率	32.2%	41.0%

※平成 27 年度には平地駅以外の全ての駅にエレベーターが設置される。

基本目標6 子どもの権利と安全を守るまちづくり

(概要)

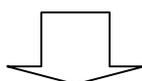
子どもの最善の利益が尊重されるように、虐待、いじめ、不登校などの解消に積極的に取り組むとともに、子どもを犯罪や事故等の被害から守るための安全対策を進める。さらに、子ども自身が自らの権利に対する意識を持ち、自らを守る力を養うことができるよう取り組みを進める。

また、障害児施策とりわけ発達障害や、ひとり親家庭への対応など、社会的養護を必要とするすべての子どもへの支援を行う。

第1章 子どもの権利擁護の推進

計画で課題として挙げられているもの

- 要保護児童の適切な保護については、引き続き、関係機関相互の連携を強化・支援体制の充実を図る。
- ひとり親家庭等の自立を促進するための、就労支援や経済支援の充実。
- 子どもの成長を通じて連続した支援が得られるよう、民間の関係機関も含めた体制の構築など、多様化、増加している療育ニーズへの対応。
- 子どもや保護者への相談及び支援体制の確保、学校現場での対応。



課題解決 に向けた 取り組み

1. 児童虐待防止への取り組み
2. ひとり親家庭等への支援
3. 障害児施策の充実

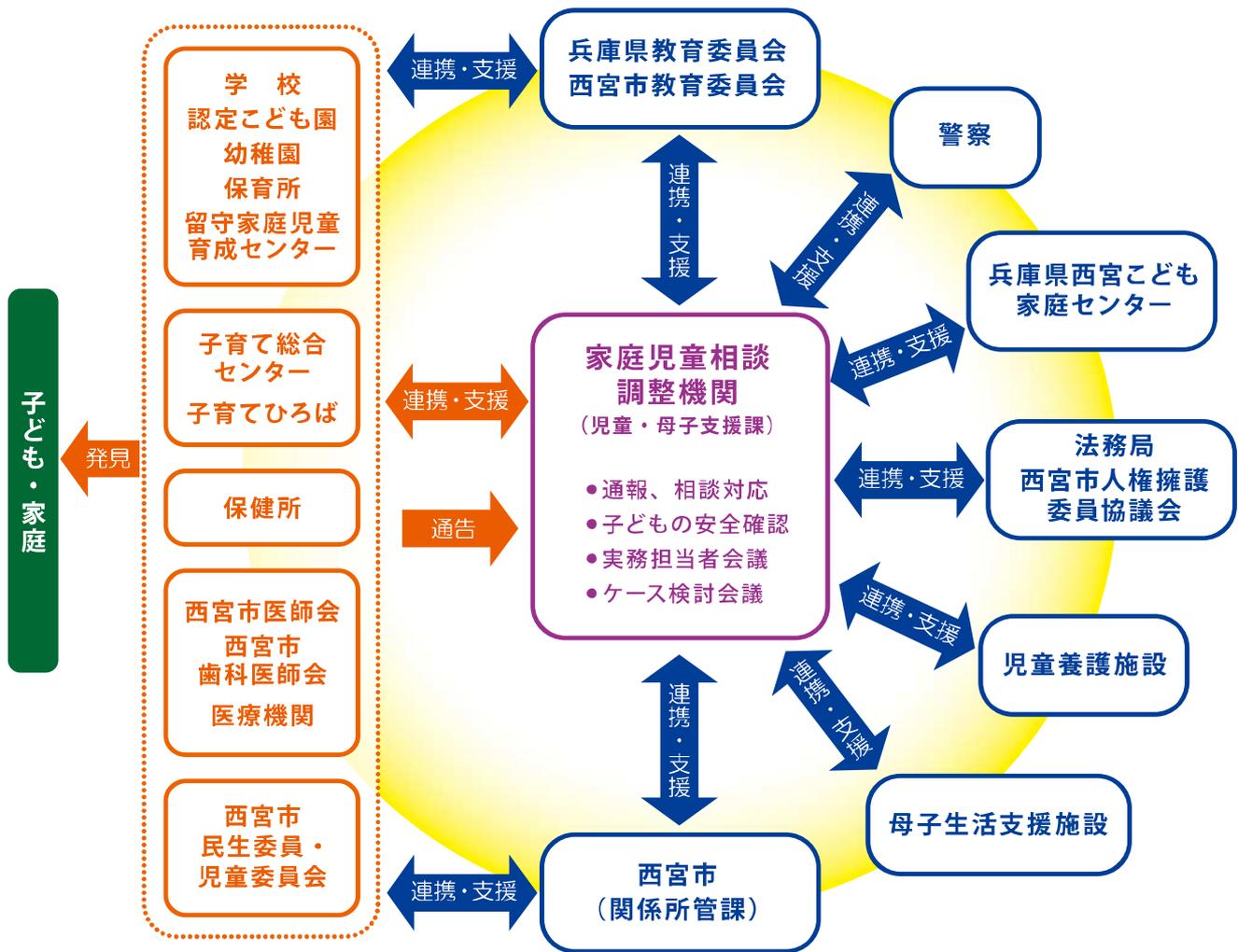
1. 児童虐待防止への取り組み【関連事業：参考資料集 p. 44】

虐待防止・予防、早期発見のため、「西宮市要保護児童対策協議会」の参加機関との連携を強化し、虐待をはじめとする要保護児童の支援体制の充実を図るとともに、専門的な職員の配置など相談体制の強化を図った。また、夜間訪問等による居所不明児童の把握にも努めた。

【図表8 家庭児童相談の相談件数及びケース会議の回数】

	H21	H22	H23	H24	H25	H26
相談件数 (うち虐待)	1,088件 (542件)	1,435件 (806件)	1,490件 (814件)	1,444件 (723件)	1,550件 (770件)	1,667件 (826件)
相談回数 (うち虐待)	6,647件 (3,724件)	10,035件 (6,706件)	13,332件 (8,546件)	15,088件 (9,140件)	17,295件 (10,486件)	19,460件 (10,149件)
ケース 検討会議 開催回数	80回	121回	99回	91回	120回	104回

【図表9 西宮市要保護児童対策協議会（通称「みやっこ安心ネット」）イメージ】



2. ひとり親家庭等への支援【関連事業：参考資料集 p. 45～46】

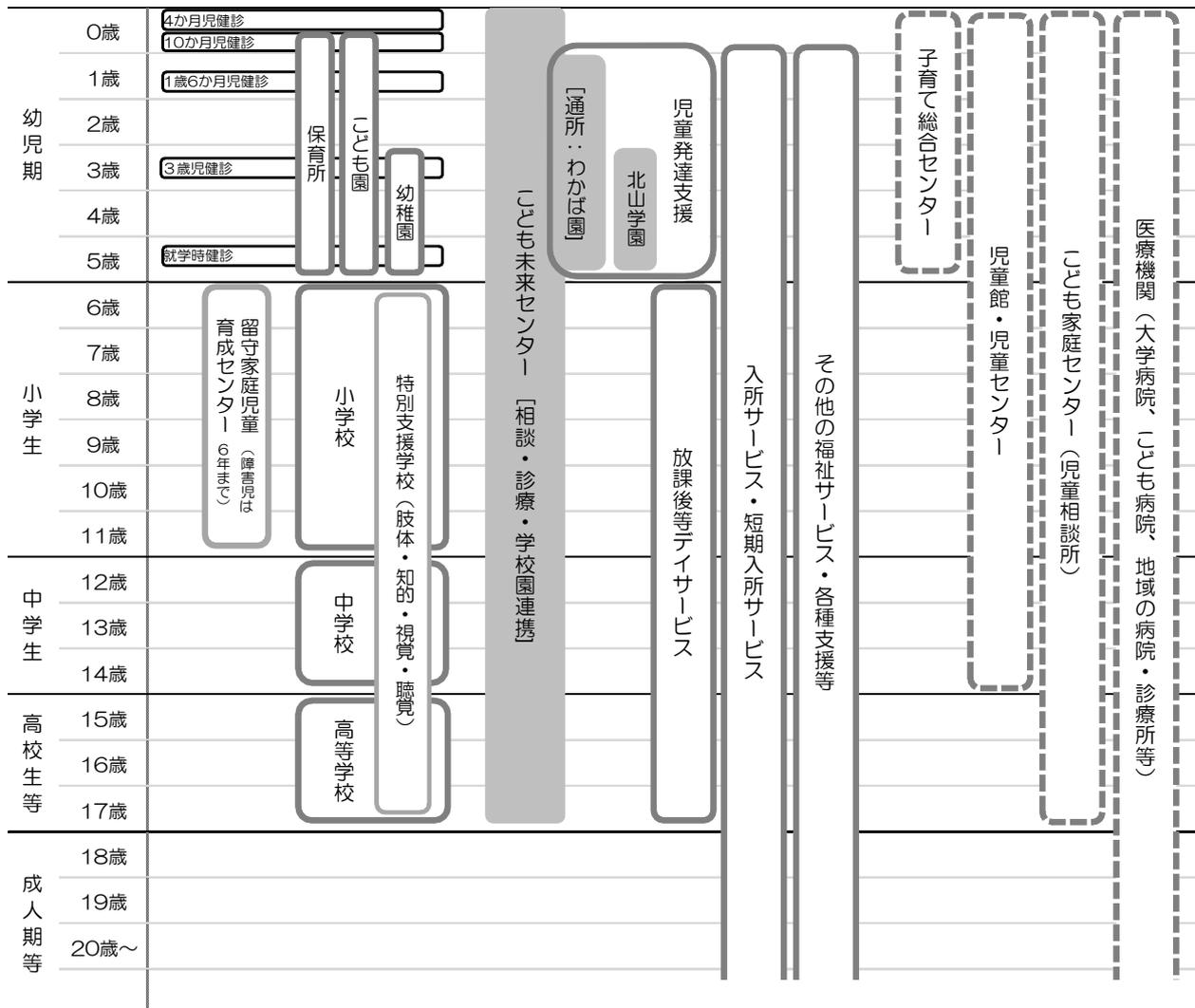
自立支援教育訓練給付金などにより、就労支援を行ったほか、母子父子世帯等を対象とした相談窓口や各種助成制度などをまとめた「ひとり親家庭福祉のしおり」を策定し、相談・情報提供を行った。

また、配偶者からの暴力（DV）被害者に対する相談、支援に関する基本的な情報提供、被害者の安全確保や一時保護等に対応する西宮市DV相談室（西宮市配偶者暴力相談支援センター）を設置した。

3. 障害児施策の充実【関連事業：参考資料集 p. 46～49】

障害のある子供が、その成長過程において必要な支援が得られるよう、健診・相談・療育体制の充実を図った。また、「専門的支援の実施」、「周囲の理解と支援の促進」の両方のニーズに対応し、効果的な支援を効率的に実施することをめざして、西宮市立わかば園、西宮市スクーリングサポートセンターを移転・再編した西宮市立こども未来センターの整備に取り組んだ。

【図表 10 西宮市における障害児のための各種サービスと対象年齢】



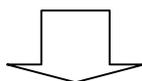
これまでの評価検討WGで出された意見

- 通園で療育を受けている人口1万人当たりの割合は、西宮市は近隣他市に比べ低い。新しい児童発達支援センターでは機能が拡充されるが、大幅な定員増はない。どのように優れた療育・サービスを提供していいのか、相対評価を含めて目標を持ってもらいたい。
- 「みやっこファイル」は他市よりも非常に進んだ取り組みである。今後は、どれだけ活用されているか、どれだけ連携されているか、どれだけ子供のためになっているか、という視点で拡大して行ってもらいたい。

第2章 子どもを取り巻く有害環境や課題解決への取り組み

計画で課題として挙げられているもの

- 精神的に不安定な状態にある児童生徒本人とその保護者に対して、専門的な立場から適切な助言が行えるような体制づくり。また、スクールカウンセラーへの相談希望に十分対応できる体制の確保。
- 携帯電話によるトラブル対策のため、家庭・学校・警察・企業などと連携し、事前防止策の導入や周知、実態把握などへの取り組み。
- 青少年の飲酒や喫煙、有害図書類、有害情報への対策について、法の網の目をかいくぐって販売する店、不良行為を誘発しやすい店舗への対応。



課題解決に向けた取り組み

1. 課題を抱える子どもへの支援体制の整備
2. 有害環境対策の推進

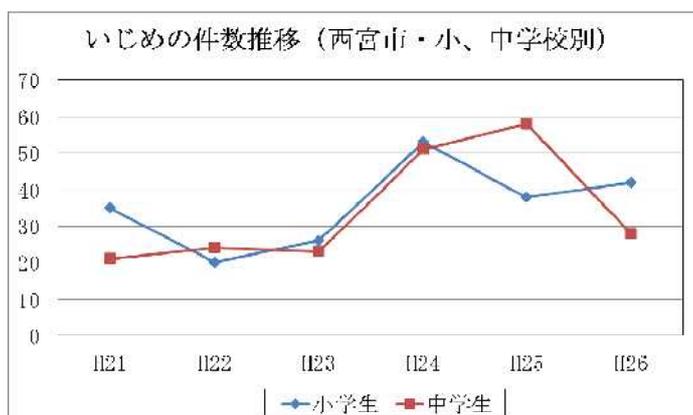
1. 課題を抱える子どもへの支援体制の整備【関連事業：参考資料集 p. 49～50】

スクールカウンセラーの全小学校配置と勤務日数や勤務時間の増加を県教育委員会に要望し増員を図った。また、スクーリングサポートセンター事業や居場所サポーターの派遣など支援体制の充実を図った。

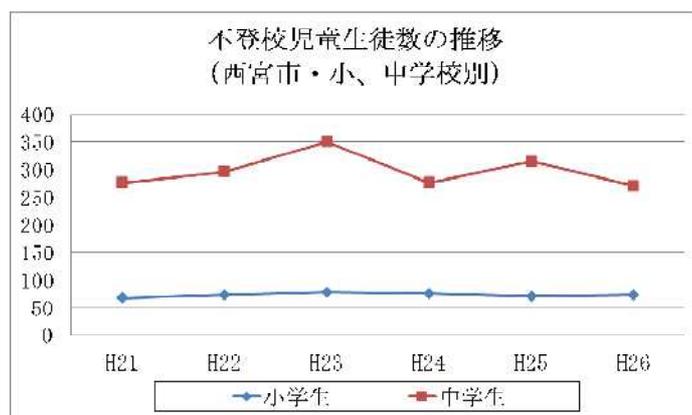
【図表 11 スクールカウンセラーの配置数】

		H21	H26
スクールカウンセラーの配置数	小学校	7校/40校	12校/40校
	中学校	20校/20校	20校/20校

【図表 12 西宮市におけるいじめの件数の推移】



【図表 13 西宮市における不登校児童生徒数の推移】



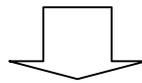
2. 有害環境対策の推進【関連事業：参考資料集 p. 50～51】

地域を挙げての取り組みとして「愛の一声」運動により、各小学校区のPTA、民生委員・児童委員等が青少年補導委員として巡回し声かけを行うほか、街頭補導活動などにより青少年の健全育成と非行防止に向けた取り組みを進めた。

第3章 子どもの安全の確保

計画で課題として挙げられているもの

- 関係機関との連携・協力体制の強化を図り、総合的な安全対策の推進。
- 専門的な立場から助言等を行うスクールカウンセラーの全小学校への配置及び勤務時間の拡充を図る。



課題解決
に向けた
取り組み

1. 子どもの交通安全の確保
2. 子どもを犯罪等の被害から守るための取り組み
3. 被害に遭った子どもへの支援体制の充実

1. 子どもの交通安全の確保【関連事業：参考資料集 p. 52】

子供の交通事故被害防止のため、幼稚園や保育所、小・中学校等において、発達段階に応じた交通安全教室等の交通安全教育を推進した。

また、通学路の安全確保に向けては、道路・警察等の関係機関と連携体制を構築し、西宮市通学路安全プログラムを策定し、通学路の点検・安全確保に努めた。

【図表 14 西宮市における交通事故（人身）発生件数】

	H21	H26
交通人身事故発生件数	2,463 件	2,048 件
うち、20歳未満が被害者となった件数	401 件	285 件

2. 子どもを犯罪等の被害から守るための取り組み【関連事業：参考資料集 p. 52】

子供を犯罪等の被害から守るため、防犯のための積極的な情報発信や、青色回転灯装備車両（青パト）によるパトロールを行っている。また、防犯灯の新設・取替などにより普及を進め、安全・安心なまちづくりを推進した。

3. 被害に遭った子どもへの支援体制の充実【関連事業：参考資料集 p. 53】

犯罪等で被害を受けた子供たちやその家族への支援については、兵庫県西宮こども家庭センターとの連携やスクールカウンセラーの活用などにより相談・カウンセリングを実施した。